

日本パペットセラピー学会 (JPTA) からのお知らせ

* 主な記事：15 回大会ご案内・オンライン講演会・地域活動報告・新入会員ご挨拶など

2021 No.1

2021 年 6 月 19 日 JPTA 事務局 〒158-0083 東京都世田谷区奥沢 8-10-7
メールアドレス info@j-pta.net FAX 03-3702-3097

コロナ禍で活動が制限されます中、オンライン講演会や感染対策を徹底された上での活動報告、また頼もしい新入会員の皆様からのご挨拶など掲載させていただきますことに感謝申し上げます。編集長 中下 富子



日本パペットセラピー学会第15回大会ご案内

「パペット、手に取ってみようよ！（仮題）」

大会長：出山 雅章 理事（小学校教諭・学校心理士・公認心理師）

会期：2021年11月（日時は未定）

会場：東京都豊島区・全国心身障害児福祉財団ビル

〒170-0005 東京都豊島区南大塚 3-43-11

第15回大会は、できればまた皆さんが「集う」大会として行いたいと考えていますが、情勢次第で magari モートでということになるかもしれません。正直なところ、保育・教育、福祉、医療などの場で、パペットセラピーはあまり広まってはいないと日頃感じています。今大会は、パペットをもっといろいろな人に知ってもらい、手にとって使ってほしいということで、「パペット、手に取ってみようよ。（仮題）」というテーマで開催してみたいと考えています。

教育、保育、福祉、医療、心理臨床場面で、パペットがどう生かせるのか、ボランティアや学校の教室や心理相談室などでの実践報告を通じてよりパペットの持つコミュニケーションツール、癒やしや治療のツールとしての力を再確認し、多くの人に「自分もこんなことやってみよう」と思ってもらえるような大会にできたらと思います。コミュニケーションツールとしての素晴らしさを保育や福祉に携わる人にどうアピールできるのか、また、セラピー、心理療法としてなができるのか、実践報告、研究発表を通じてみんなで考えられたらと思います。

また、できることなら学会員以外の人にもできるだけ来てもらえるよう声を掛け、「パペットってこんなに楽しいんだ！」といったことも知ってもらえたらと思います。パペットによる実践や研究がありましたら是非お知らせください。まだ曖昧とした構想ですが、皆様のご意見をいただきながら実りある大会にしていきたいと思ひます。

事務局だよ



新年度が始まりました。いつもご支援ありがとうございます。まだまだおさまらないコロナ渦の中、ご無事にお過ごしでしょうか？ 感染予防のため対面でのパペットセラピーの活動が制限され、終わりの見えないつらい思いが続いています。しかしこの時期だからこそ、パペットセラピーの意義を再考し、実力を蓄えることに励みましょう！実際の対面はかありませんが、Zoom による講習会を頻回に開催して参ります。新しい会員も増えました。画面を通して会員同士のきずなを深めたいと思ひます。7月17日（土）の講習会は、昨年の大会前日に開催予定で、コロナで中止となったプレセミナーになります。大会参加なさった皆様には、大変ご迷惑をおかけしました。是非今回の Zoom での会にご参加ください。ホームページ「お知らせ」欄をいつもチェックしてください。9月には初心者向けの講習会を予定しております。これは5月23日（日）に開催しました講習会の続きです。皆様からの新しい企画案などご提案をいただければと思ひます。お待ちしております。

オンライン講座「実技で学ぶパペット操作の基本」感想

講師 安藤 倫子（腹話術インストラクター）

2021年5月23日、パペットセラピー学会主催でパペット初心者の方を対象としたオンライン講座を開催しました。

テーマはパペット操作の基本で、受講者は定員の8人でした。オンライン環境での多人数の講座は、現在のインターネット技術ではどうしても少々の通信の不具合や画像の見づらさや、短い時間のズレなどが生じてしまうのですが、参加者の皆さんはとても集中して講義を聞いて下さり、約2時間のオンライン研修は充実した時間となりました。

今回の講座は、パペットセラピー理論の基本概念と操作の基本練習実技だけに焦点を当てて、初心者の方が理解しやすく楽しめるようにし、また、経験の長い方にとっては大事な技術の復習に役立つように心がけました。

一緒に参加していた各々の相棒パペットは、おばあちゃん、カエル、男の子、妖精？などバラエティ豊かで、8人ではなく16人いるように感じました。ネコの声で発声練習をしたり、その声で朝ご飯の内容を語ったり、人形と一緒に数を数えたり、かけ算九九をやったりと、画面の中に大変面白い光景が映りました。

後半はパペットの名前と一言紹介を1人ずつやってみましたが、興味深い発見もありました。お二人の方が、ダニエラさんのワークショップのパペット（入会特典としてプレゼントされた物）を持参されていましたが、同じパペットでも操作する人によって、全く違う個性を持ったパペットに見えました。パペットは操作する人の個性を自然に映し出す媒体なのだと、改めて感じました。

オンラインによる画面を介した実技講座は、相手の意図を読み取るために集中して画面を見つづけなくてはなりません。その点で対面講座とは違った緊張感や疲労感があるものですが、パペットが画面と一緒に映り込むことでそれが軽減されるように感じました。これからオンラインのコミュニケーションが増えてゆくと思われそうですが、パペットを積極的に使えば、画面を介しても人々がより楽しく交流できるのではないか、という可能性も見えてきたように思います。貴重な学びの機会をいただきありがとうございました。

【講座の中で使用した画像資料】



パペットセラピーの基本概念
(パペットセラピー学会の定義)

治療者（術者）が主体となり、
パペット（腹話術人形）を介して
対象者の心に寄り添い、関わることで、
心理的、身体的に好ましい状態を
与える活動

引用「パペットセラピー入門～パペットセラピーの理論と実践～」より



【地域活動報告】

子どもの日のための腹話術とパペットショー

矢崎 育子（山梨腹話術研究会代表・パペットクラブ代表・パペット合唱団主宰）



実施日：2021年5月5日（水）

場 所：第一部 山梨県立図書館多目的ホール
第二部 藤村記念館前広場

参加人数：第一部 50名（観客は定員 35名）

第二部 55名（観客は定員 15組 36名）

目 的：パペットと腹話術を活かして子ども達の夢や想像力を育み、大人も子どもと一緒に、安心して笑顔で楽しめる場を創る。

パペットセラピーの実践力をつける。

内 容：1) リトミックと手遊び

（手拍子や身体表現を活かして楽しく参加できる工夫）

2) パペットセラピー

（癒しをテーマに拍手を活かした腹話術）

3) パペット合唱団演技

（おもちゃのチャチャチャ等）

4) 大型絵本とパペット

感 想：

昨年は中止で今年も迷いましたが、色々工夫しながら開催することにしました。

第一部は、図書館の事前予約、定員減、検温、消毒、マスク、アクリル板等の対策と演技の工夫で、安全で楽しい催しにすることが出来ました。参加者にも大好評でした。第二部の広場は、1歳の幼児も参加出来たことが良かったです。出演者は、状況に合わせて工夫する大切さが学べて良かったという感想が多く、貴重な学びの機会になりました。



新入会員の皆様からのご挨拶

新参者の佐野と申します。よろしくお願いいたします。

手話通訳と手話指導を生業としています。音楽のほうの趣味もあり、よく施設での出前演奏などもさせていただいています。

病院でのボランティアも多く、初めは腹話術を学ぼうと錦糸町の読売カルチャーセンターにスージー先生をおたずねし、先生から学会のことご紹介頂きました。

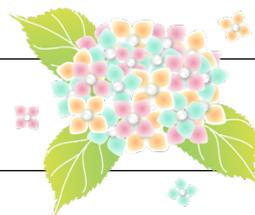
はじめまして。この度入会させていただきました前田美代子と申します。

私は、以前、教育番組でパペティアとして出演していました。日本では人形操作と声の出演を同時収録する番組はなく、当時は手探り状態で、常に子どもの反応に合わせ、番組を作っていました。内気な子には、こちらがもっと緊張してみせると、小さくなっていた筈のその子が急にお兄さんになってリードしてくれて、その反応の変化がとても面白かったです。

様々なお子さんと接して、パペットが子どもたちの心に与える影響をセラピーに活かせないかと、ずっと考えていました。

皆様の実践報告や考察を拝見させて頂いて、パペットの広がる可能性にとってもわくわくしています。これから沢山のことを学ばせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

前田 美代子



昨年11月から会に入れていただきました。

秋田で人形劇を仲間と共に三十年余り続けております。メンバーも高齢化、コロナ禍で公演の回数はめっきり減っておりますが、細々とでも続けていきたいなあと思っているところです。私たちの体力にあった新作を作ろうかと思いつながらネット検索していたところ、この会の存在を知りました。

この3月で退職しましたが、仕事では家庭相談員という子どもの養育に問題を抱えるご家庭の支援をしていました。DV被害を受けた母子への支援をする会にも所属しています。心理教育プログラム『びーらぶプログラム』というのがあるのですが、子ども向けプログラムではパペットでロールプレイを見せたりもします。集中できなかった子も食い入るように見てくれます。パペットは偉大です。

そんなわけで、“セラピー”という名称にも心惹かれました。4月からは、母の介護で埼玉の実家に来ています。介護を元気に乗り切るためにも腹話術の練習を楽しみたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

工藤 久美子

